

兵庫県立丹波医療センター 地域医療連携センターだより

**T M C**
AMBA MEDICAL CENTERVol.29
2026

9



〒669-3495 兵庫県丹波市氷上町石生 2002 番地 7 TEL:0795-88-5200(代表)

病院機能評価を受審して

副院長 藤田 恒憲



日本医療機能評価機構

地域の皆様へ

平素は兵庫県立丹波医療センターをご利用いただき、また当院の運営に温かいご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。当院では、地域の皆様にこれまで以上に「安全で質の高い医療」をお届けするため、令和7年10月6日・7日の2日間にわたり、第三者機関（公益財団法人日本医療機能評価機構）による「病院機能評価」の訪問審査を受審しました。

「病院機能評価」とは病院運営に関わる各領域の専門調査員（サーベイヤー）が病院を訪れ、「患者さんの安全が守られているか」「適切な医療やケアが行われているか」「病院の管理体制はしっかりしているか」など、約90もの項目について、中立的な立場から厳しくチェックして一定の水準を満たして施設を「認定病院」として登録する制度です。当院は急性期医療を担当する「一般病院2」をベースに、さらに副機能として「リハビリ

テーション病院」、「緩和ケア病院」も受審したため、単一受審病院の数倍の事前準備が必要となりました。審査期間中は、調査員が院内のすべての部署を回り、実際の医療の現場や書類を確認したほか、病院経営・管理層から医師や看護師、コメディカルまで全職種へのヒアリングが行われました。その結果、受審終了後認定までに6ヶ月の期間を要しましたが、令和8年4月3日に施設認定されました。

今回の審査を通じて、当院の強みが確認できた一方で、さらに改善すべき大切な課題も見つけることができました。私たちは今回の認定をゴールとは考えておりません。いただいたアドバイスや気づきを日々の業務に活かし、地域の皆様がいつでも安心してかかる「信頼される病院」であり続けるよう、職員一丸となって努力を続けてまいります。これからも兵庫県立丹波医療センターをどうぞよろしくお願い申し上げます。



産婦人科のご紹介



産婦人科医長 中島 由貴

丹波医療センターの産婦人科では、お産はもちろんのこと、多くの女性が抱える月経困難症や更年期障害、また、卵巣腫瘍・子宮筋腫・子宮頸部異形成などといった婦人科疾患の経過フォローから手術を含めた加療まで、そして婦人科悪性疾患の診断から加療も、積極的に取り組んでいます。また、なかなか人に相談しづらい骨盤臓器脱の加療にも取り組んでおり、産科・婦人科における幅広い領域の医療を担っています。

現在、当院の年間分娩件数は230件ほどです。丹波市内だけでなく、丹波篠山市、朝来市、多可町など、広い地域における分娩の中核を担っており、里帰り分娩も受け入れています。また、小児科と連携し、妊娠34週以降の早産も含めた分娩も取り扱っており、スタッフ一同で日々安心・安全な分娩を心がけています。出産前からの関わりを大切に、両親学級の開催、ご主人の立ち会い出産、また、産後も安心して赤ちゃんのお世話ができるように入院中のサポートはもちろん、外来でのおっぱい相談も受け付けており、母乳育児のことだけでなく、さまざまなことをご相談いただける環境作りに努めています。退院後も、いろんな不安を抱え、悩んでおられる方々のために、産後ケア入院も受け入れています。

また、他科とも連携し、合併症のある妊婦さんも安心して分娩に臨んでいただけるよう、最善を尽くしています。

婦人科領域におきましても、卵巣良性腫瘍の手術や子宮全摘術も、侵襲の少ない腹腔鏡手術で積極的に行っており、悪性疾患においても手術からその後の追加治療まで、当院で一貫して標準的な治療を受けていただくことができます。

また、婦人科における急性腹症のうち、卵巣茎捻転や、子宮外妊娠といった緊急手術症例においても、積極的に受け入れ、腹腔鏡下手術で安全かつ侵襲の少ない治療を心がけています。

産婦人科は、どうしても敷居が高いと思われがちですが、女性の皆様の、さまざまなライフステージにおける悩みに寄り添いながら、皆様に安心していただける医療を提供できるよう、産婦人科スタッフ一同、日々全力で取り組んでおりますので、いつでも気軽にご相談に来ていただけたらと思います。



2列目 丸尾医師、望月医師、中島医師

1列目 忽那医師、六車医師、辻本医師



丹波医療センターで お産をしませんか！

LDR

陣痛室・分娩室が一体となったお部屋です。陣痛が始まってから、出産、産後2時間まで1つのお部屋で過ごしていただけます

立ち会い出産

夫・パートナーのみとなります
出産までは夫・パートナーに加えてご両親の付き添いが可能で、LDR内で一緒に過ごすことができます

早期母子接触

生まれた赤ちゃんとお母さんの状態が安定している場合、お母さんの胸の上で赤ちゃんを抱っこしたり、早期授乳を実施します

小児科医師との連携

24時間体制で産科と小児科が連携して安全に出産していただけるようサポートします

出産後のサポートも充実！

おっぱい相談

退院後のお母さんと赤ちゃんを対象に、乳房のトラブルへの対応や育児相談を予約制で行っています。詳しくは当院のホームページをご覧ください

産後ケア

産後のお母さんと赤ちゃんが安心して過ごせるように、身体と心のケアや育児技術のサポートを行っています。通所型と宿泊型を選択することができます。お申し込みは、お住まいの市役所等にお問い合わせ下さい

※どちらも当院以外で出産された方もご利用いただけます

病棟スタッフが皆様の入院生活を全力でサポートします！



兵庫県立丹波医療センター ☎0795-88-5200 (代表)

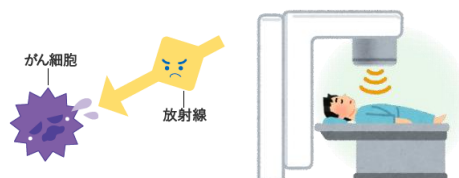
放射線治療部からの お知らせ

放射線科（リニアック）部長 小西 圭



令和8年より当院連携紹介状に希望診療科「放射線科（放射線治療）」の項目が増えました。これまで通り、がん患者さまの放射線治療は担当主科を通しての当科紹介が基本となりますが、特に以下のような『放射線治療を急ぐべき状態』と判断される場合にご活用いただければと思います、ご紹介する次第です。

1. 脊髄圧迫や神経根圧迫・浸潤による麻痺等の進行
2. 頸部・縦隔リンパ節増大による上大静脈症候群の増悪
3. 頸部・縦隔リンパ節増大による気道閉塞の増悪



上記、放射線治療の早期開始が推奨される場合に、逸早く放射線治療医の介入を確保し、担当主科への連絡や追加検査の手配等もお手伝いできればと考えております。よろしくお願い致します。

糖尿病教室開催の お知らせ



糖尿病の患者さんやご家族の方を対象に、糖尿病教室を開催します。

今年度は『糖尿病合併症』をテーマに、医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師・管理栄養士などの専門スタッフが、病態やお薬、検査、食事、日常の過ごし方などについて、お話をさせていただきます。

教室はどなたでも無料でご参加いただけます。事前申し込みは不要です。

みなさまのご参加をお待ちしております。

【令和8年度 糖尿病教室】

場所：兵庫県立丹波医療センター2階講堂



開催日時	内容	講師
令和8年9月17日（木） 13時30分～15時	糖尿病合併症	糖尿病内科医師
	糖尿病合併症の検査 日常生活の注意点	臨床検査技師
	フットケア	看護師
令和8年11月26日（木） 13時30分～15時	糖尿病、糖尿病合併症のお薬	薬剤師
	糖尿病のお食事	管理栄養士

お知らせ

病院フェスタを開催します！！

日時

2026年 10月31日(土)

イベント・展示・ステージ 10:00~14:00

市民公開講座 13:30~15:30

場所

丹波医療センター1階外来フロア、健康広場、
ミルネ1階フロア

- ★ 内容 ①イベント・展示 院内スタンプラリー、一次救命処置体験・
こども調剤体験・手術室体験・非常食試食体験
コーナー、DMATカーの展示ほか
②ステージ 柏原高校吹奏楽部演奏・ウルクグループ演奏ほか
③市民公開講座 「老化と心不全について」

- ★ 入場料、申込み不要(1部先着順で人数限定イベントあり)
★ フェスタの内容は変更の可能性あり

詳しくは当院 HP をご覧ください。または 地域医療連携センターまでお問い合わせください

街の医療機関

地域医療を担う近隣の医療機関を紹介させていただくコーナーです。
医療機関の特徴を知り、地域住民の皆様にも良質かつ効率的で切れ目のない
医療が提供できる連携を目指します！
今回は、ささやま医療センター 井手通雄院長 をご紹介します

7月から兵庫医科大学からささやま医療センターを継承し、新たなスタートを切ったばかりのにしき記念病院
院長である井手通雄先生を7月16日に訪問し、お話を伺ってきました。

先生は淡路島出身で、九州大学理学部を卒業後、淡路島で塾を経営しながら大阪市立大学(現、大阪公立大学)
医学部に進学されました。卒業後は地域医療に携わる中、国立病院時代から、ささやま医療センターには幾度と
なく助けられた経験があり、その伝統と信頼を引き継ぐ責任の重さを強く感じていると話されます。その恩に報
い、よりよい医療を実践していくために院長が目指していることは「年中無休で診ること」「診られるものは責
任を持って診ること」「診られないときは責任を持って紹介すること」
です。そしてなにより、「あそこへ行けば何とかしてくれる」と地域
から信頼される病院になることだそうです。

今後は、にしき記念病院との機能分担を進め、両病院がそれぞれの
役割を発揮できる体制づくりに取り組んでいくそうです。
ささやま医療センターそのものがブランドと、何も冠すること
のない病院名を新たに置いた記念碑に揮毫された自称野武士の
院長に熱く語って頂きました。(芝 記)

